

最近の国際状況から予測する感染症流行



東京医科大学病院 渡航者医療センター

教授 **濱田篤郎**

Atsuo Hamada

昨年から英国のEU離脱や米国でのトランプ政権発足など、国際的な政治経済状況に大きな変化がみられている。こうした変化は感染症の流行にも影響を及ぼすことがあるが、現在の状況から近未来の感染症流行を予測してみたい。

サウジアラビアとMERSリスク

今年3月中旬にサウジアラビアのサルマン国王が来日した。同国は脱石油を目指しており、日本に経済援助を求めてきたわけだ。今後は日本の多くの企業がサウジアラビアへの進出を加速させるだろうが、そのような状況で注意すべき感染症がMERS(中東呼吸器症候群)である。

この感染症は2015年5月に韓国で流行したことでご存じの方も多いと思うが、中東では12年から流行が拡大している。今年もサウジアラビアでは40人近い患者が発生し、重症の肺炎による致死率は3割にも達する。原因となるウイルスはラクダが保有しており、ラクダに接触したり、その乳を飲むことで感染が起きる。また、病院内で患者から感染するケースもある。今後、サウジアラビアへの渡航者が増えれば、現地で感染した者が国内にMERSを持ち込む可能性も高くなるだろう。そのような場合、15年に韓国で起きたような事態に発展することも予想されている。

訪日中国人と鳥インフルエンザ

日本を訪問する外国人数は年々急増しており、16年は2000万人を突破した。この大多数が中国からの訪問者であるが、そんな中国の沿岸部では、13年から鳥インフルエンザH7N9型の患者が1300人以上発生している。中国からの旅行者がカナダやマレーシアで発症した事例も報告されており、今後、日本国内で患者が発生する可能性は十分に考えられる。

もう1つ心配なのが中国から持ち込まれる食品である。今年の3月、中国人旅行者が日本に持ち込んだ鶏肉から、鳥インフルエンザH5N1型のウイルスが発見された。このウイルスもヒトに感染すると重症の肺炎を起こすことが知られており、汚染された鶏肉を調理不十分な状態で食べれば感染の危険性がある。海外から日本に鶏肉を持ち込むには、事前の届け出と厳重な検査が必要になるが、旅行者が増えれば未検査のまま持ち込まれるケースも増えてくるだろう。訪日中国人旅行者の増加とともに、国内で鳥インフルエンザの患者が発生するリスクは次第に高まっているのである。

トランプ政権と米国のジカ熱

米国では1月にトランプ政権が発足し、数々